

総合病院 鹿児島生協病院 医局学術誌

医報

Vol.21 2023.9

目

次

巻頭言 総合病院鹿児島生協病院 那須拓馬 1

臨床研究

胸水細胞診10年のまとめ 那須拓馬 2
島嶼部・僻地医療における腹膜透析 佐伯英二 12
離島における医療連携（CAPDカテーテル留置を中心として） 佐伯英二 16
離島のCAPD診療における電子カルテの有用性 佐伯英二 18

症例報告

診断に苦慮した胸壁原発類上皮血管肉腫の1例 那須拓馬 20

著書・論文

CONCURRENT BACTEREMIA DUE TO NON-VACCINE SEROTYPE 24F
PNEUMOCOCCUS IN TWINS: A RAPID INCREASE IN SEROTYPE 24F-INVASIVE
PNEUMOCOCCAL DISEASE AND ITS HIGH INVASIVE POTENTIAL 川畑俊聡 27
水頭症に対するLPシャントカテーテルの小腸迷入による髄膜炎を生じ、
緊急鏡視下手術を施行した稀有な症例 鎌谷泰文 30
連載 医療と製薬資本 馬渡耕史 33
乳白菌の齶蝕進行による頬部蜂巣炎の2例 井上一利 53
心臓機能低下例における心房細動の急性期心拍数調節療法
—ジゴキシンと β 遮断薬— 馬渡耕史 56
大動脈ステントグラフト挿入術後に大動脈食道瘻を合併した1剖検例 馬渡耕史 64
社会的問題への介入—social vital signs 小松真成（共著）73
腹腔鏡手術で二期的に治療した、鼠径ヘルニア偽還納による絞扼性イレウスの1例 森下繁美 75

著書・論文一覧 78

学会発表・抄録 79

臨床病理症例検討会（2021年4月～2022年3月） 89

投稿規定について 128

巻頭言

総合病院 鹿児島生協病院
那須 拓馬

はじめに

鹿児島生協病院医報第21巻を無事発行することができました。医報編集委員長として、ご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

世界では

2022年2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻がはじまりました。私にとって忘れることのできない53歳の誕生日になりました。いまだ、戦争収束の目途はたたず、核兵器の使用さえも現実味を帯びている危険な状況が続いています。アジア地域での不安定要素や新型コロナの影響ともあいまって、世界の経済や安全保障環境は混沌としています。

国内では

2022年7月8日、安倍晋三元首相が銃撃されるという事件をきっかけに、旧統一教会と政治との深刻な癒着関係が一気に白日のもとになりました。一方、対話による外交努力も、国会での審議も不十分なまま、2022年12月16日、政府は安全保障関連3文書を閣議決定し、防衛政策を専守防衛から事実上大きく転換しました。今後激しさを増すとみられる近隣諸国との果てなき軍拡競争とともに、増税や社会保障のいっそうの削減が懸念されます。憲法改正の動きも本格化しており、平和の声をあげれば、非国民とよばれかねない、息苦しさを感じます。日本国憲法のもつ平和主義、国際協調主義は既に形骸化しており、2022年はまさに戦後から戦前へ時代が塗り替わった年になってしまったようです。

全日本民医連では

2022年2月5日、旧優生保護法下における強制不妊手術問題に対する見解が、全日本民医連から発表されました。その後、それに関連した学習運動が全国の民医連院所にむけて提起されました。旧優生保護法の問題にかぎらず、ジェンダーの多様性を尊重する取り組みなども含めて、あらためて人権に対する意識を高め、日常の医療・介護活動に生かしていくことが、私たちには求められていると思います。

鹿児島生協病院では

2022年、病院の建て替えにむけた医療構想議論が、鹿児島生協病院で本格化し、継続されています。また、2024年の鹿児島医療生協50周年にむけた記念行事の準備もはじまっています。パンデミックでの教訓も十分に生かしながら、鹿児島生協病院はもちろん、鹿児島民医連全体の医療を再構築する必要があります。私たちは、今まさに節目を迎えていると言えるでしょう。

おわりに

鹿児島生協病院医報は、私たちのその時々々の学術活動のまとめとして発行されてきました。学術活動は、医学・医療の進歩、そして私たち自身の医療活動レベルの向上をめざして、日常の医療活動と並行して注力すべき取り組みです。私たちの学術活動のレベルを確認し、未来に向かう力とするため、医報の発行をしっかり継続したいと思います。皆様には、今後とも医報の発行にお力添えいただくことをお願いし、巻頭言とします。